

何を提供できますか？

臓器

- 心臓**
循環器系の中核。
- 肺**
自力での呼吸を可能にする。
- 肝臓**
生命に不可欠。
- 腎臓**
患者を透析や早期の死から救う。
- 膵臓**
インスリンを産生し、血糖値を調節する。
- 腸**
消化を助ける。

組織

- 角膜**
視力を回復させる。
- 心臓弁**
心臓の欠損を修復する。
- 静脈**
血流を回復させる。
- 皮膚**
火傷の患者を治療する。
- 骨**
大きな怪我の後に身体の可動性を回復させる。
- 腱**
関節を修復する。

臓器と組織の提供で命を救えます。



WES
心臓移植を受けた人



詳しくはこちら：



臓器・組織提供について詳しく知るには、QRコードをスキャンするか、[DonateLifeIndiana.org](https://www.DonateLifeIndiana.org)をご覧ください。

あなたの “はい” 大切さが 力になる

あなたには命を救う 力があります。

DONOR♡



JOY
腎臓移植を受けた人

必要性：

インディアナ州では1,200人を超える人々が、米国全体では10万人を超える人々が、命をつなぐために臓器移植を必要としています。移植待機者リストには毎日さらに多くの人が加わっています。

残念ながら、多くの人が移植を待つ間に亡くなっています。

臓器提供はまれです——臓器提供が可能な状態で亡くなるのは、1,000人に対してわずか3人です。

解決策：

より多くの人が臓器・組織提供者になることに「はい」と意思表示すれば、より多くの命を救い、より多くの人を回復させることができます。

年齢や病歴にかかわらず、誰でも「はい」と意思表示できます。

登録した場合、臓器および／または組織の提供が行われるのは、その人が法的に死亡したと判定された後のみです。

1人の臓器提供者だけで 8人の命を救えます

数字で見ると：

1人の臓器提供者が8人の命を救い、さらに組織提供によって75人以上の人を回復させることができます。

インディアナ州で「はい」と意思表示した臓器提供者のおかげで、毎年1,200人を超える命が救われています。

臓器および／または組織の提供に、提供者の家族が費用を負担することはありません。

提供のプロセスを理解する



誰かが「はい」と言う

ある人が臓器・組織提供者として登録します。



予期せぬ出来事が起こる

事故による外傷など、命にかかわるけがや病気のため、ある人が病院に搬送されます。



救命措置をすべて尽くす

提供が検討される前に、医療チームは患者の命を救うために可能な限りの処置を行います。それでも救命できなかった場合、提供チームとは独立した医師が死亡を宣告します。



提供のための摘出が始まる

高度な技術を持つ外科医が臓器を摘出し、命を救う移植に向けて準備します。熟練した組織摘出コーディネーターが、提供可能な組織を摘出します。



移植

摘出後、臓器は陸路または空路で指定された移植センターへ搬送され、そこで命を救う贈り物を待っている人に届けられます。

死亡後の臓器提供には2つのタイプがあります

脳死後の臓器提供

移植チームとは独立した医師による広範な検査の結果、法的に脳死と判定された人から、臓器や組織を提供してもらうことがあります。脳死とは、脳幹を含むすべての脳機能が不可逆的に失われた状態であり、法律上、死亡として認められています。昏睡状態や植物状態とは異なり、脳死が回復することはありません。その人が人工呼吸器を装着している場合、酸素と血流によって提供される臓器の状態を維持できます。

循環停止後の臓器提供

循環停止による死亡は、心臓が停止して血液循環がなくなったときに起こり、通常は重度のけがや病気の後に発生します。生命維持治療を中止する決定は、提供とは関係のない医療チームとともに、患者の家族が行います。人工呼吸器を外し、心臓が停止した後、独立した医師が死亡を宣告します。その後、臓器および／または組織の提供が行われる場合があります。

組織提供について知る

1人の組織提供者が、骨、皮膚、腱、静脈、心臓弁、角膜などを提供することで、75人以上の人を救い、回復させることができます。

人が亡くなった後、Indiana Donor Networkに連絡が入り、候補となる提供者の近親者と協力して組織提供の承認を得るとともに、医学的な適格性を判断します。組織提供は死亡後24時間以内に行われ、組織提供者が臓器提供者でもあったかどうかにかかわらず、可能な場合があります。組織提供者は、病院、検視官、葬儀ディレクターなどの協力のもと、組織の摘出のためIndiana Donor Networkへ搬送されます。摘出された組織は、将来の医療利用に備えて処理・保管する提携機関に届けられ、やけどの治療、視力の回復、靱帯や骨の修復、運動機能の回復などに役立てられます。その後、組織提供者は希望する葬儀場へ搬送され、希望すれば棺を開けた葬儀を行うこともできます。

迷信と事実

迷信：ドナーになったら、医師は私の命を救おうとしてくれない。

事実：医師は常にあなたの命を救うことを最優先します。ドナーであることが考慮されるのは、すべての救命措置が失敗した後だけです。

迷信：私は年を取りすぎている、または病気なので、何も提供できない。

事実：年齢や病歴にかかわらず、誰でも臓器・組織提供者として登録できます。医師が、死亡時に提供が可能かどうかを判断します。

迷信：家族が私の決定を覆すことができる。

事実：米国では、死亡時に臓器提供が可能であれば、登録された提供者の意思は法律により尊重されなければなりません。提供者としての意思表示が登録されていない場合に限り、家族が決定できます。提供者としての意思表示の有無にかかわらず、組織提供を進めるかどうかは、家族がいつでも選択できます。

迷信：自分のことは家族に決めてもらえばよい。

事実：提供は、突然または予期せぬ死の後に行われることがよくあります。自分の希望をあらかじめ伝えておくことは、家族がつらい時を乗り越える助けになります。必ず自分の意思を家族に伝えておきましょう。



贈り物に敬意を表して

臓器・組織提供者は、最後の行動として命を救い、回復させるという、いつまでも残る遺産を残します。そのため、彼らは永遠に「ドナーヒーロー」として記憶されます。命を救い、回復させる人にふさわしい呼び名です。

ドナーヒーローは、インディアナ州インディアナポリスにあるIndiana Donor Network Donor Memorialで、永遠に称えられ、顕彰されます。ここはインディアナ州の臓器・組織提供者をたたえ、家族が静かに思い出を振り返るための、平穏で没入感のある空間を備えた体験型施設です。

もしドナーヒーローからの贈り物がなければ、私は今日ここにいません。
-TAYTUM
肝臓移植を受けた人



提供者の家族を支える

悲嘆への支援

Indiana Donor Networkは、臓器・組織提供が行われた後も長く、ドナーヒーローの家族と関わり続けます。家族には、1対1の悲嘆支援、サポートグループ、追悼の機会、記念品、さまざまなリソースなどが提供されます。

イベント

大切な人の死を受けた後の心の癒やしには、追悼と地域とのつながりが重要です。Indiana Donor Networkは毎年複数のイベントを開催しており、Donor Family Picnic、Donor Memorial Weekend、Walk to Save Livesのほか、ドナーヒーローの家族を対象とした、より小規模で親密なイベントも行っています。